

自由交流

日時：8月9日(木) 18:30～20:30

参加者が自由に企画する交流会です。希望の交流テーマがあれば、本部に申し込んでください。下記以外は、申し込みがあり次第、速報で紹介します。

No	テ ー マ	呼びかけ人等	会 場
01	小学校・割合（倍）の学習 ～何が問題でどう教えるか～	世話人：原啓司 語 り：石原・板垣	立志館1階「国語1」
02	授業プランを作れる力をつけよう ～弁証法，認識論，論理学で授業を考える～ 安曇野研究会	世話人：川村 和人 語 り：森 誠治	立志館1階「国語2」
03			
04			
05			
06			

小学校・割合（倍）の学習

～何が問題でどう教えるか～

世話人：原 啓司（近畿地区数学教育協議会）

語り：石原清貴（四国地区数学教育協議会）

板垣賢二（九州地区数学教育協議会）

全国学テでも圧倒的に正答率が低い「割合（倍）」の問題。多くの小学生が苦手とし、先生方の中にも指導を苦手とする人がいるのではないのでしょうか。

この問題に、石原清貴さん（香川）と板垣賢二さん（福岡）のお二人に語っていただきます。

もちろん、参加される方々も、ぜひ議論に加わってください。

暑い京都の夏の、熱い数学談義。ちょっと濃〜い話をしませんか？

テーマは以下の3つです。

テーマ1：割合（倍）の苦手な子ども・先生

テーマ2：割合（倍）の系統は？

テーマ3：何を大切に？どう教える？

授業プランを

作れる力をつけよう

～弁証法、認識論、論理学で授業を考える～

世話人：川村和人（近畿地区数学教育協議会
安曇野研究会）

語り：森 誠治（安曇野研究会）

教師は実践家です。「どう教えるか」に強い関心を持っています。「数を（掛け算を、分数を）どう教えるか」

では、そもそも「数って何ですか？」「掛け算と割り算の共通性と相違性は？」「分数にはいろいろあるようですが、つまり、分数って何ですか？」

このように問われると困ります。

教える内容は一応理解しています。しかし、「そもそも」と問われると口を閉じるしかありません。「そもそも」を問わずに教え方を工夫すると、どうしても小手先のレベルに終わってしまいます（どのように教えるかという具体化を「下り過程」、共通性を考える抽象化を「上り過程」と言います）。

さらに「そもそも教育って何ですか？」と定義を問われたらお手上げです。定義は「困ったときの羅針盤」であり、「実践を評価する時の物差し」です。（数教協では「個別単位から普遍単位へ」を大事にしています。でも、「教育」については、共通の物差しがないのに、授業検討を行っています）。

「そもそも」から考えると、対象のつながりがよく見えてきます。すると、新しい指導法がいくつも浮かんできます（「一度上ってから下りる」、「一般論を媒介させる」「遠回りが近道」という実践方法論です）。

では、どういう力を付けたら「本質的な問い」が出せるようになるのでしょうか。その問いの答えに行き着けるのでしょうか。その元になる考え方が弁証法、認識論、論理学という文化遺産です。

ただし、少し勉強したらすぐに成果が出るという訳にはいきません。年を単位としたような勉強の積み重ね（相互浸透から量質転化へ）が必要です。

その第一歩を踏み出してみませんか。